

ダンボールコンポスト

実践編

ダンボールコンポストを作る



- **ダンボールを重ねる**

- 水気が多い生ごみを使用した場合、底が破れてしまう場合があるため。
- 底を二重にするだけでもよい。

ダンボールコンポストを作る



- **ピートモスを入れる**
 - 今回のモデルは、10kgのピートモスを購入し、全て入れた。
 - ダンボールの大きさ等により、増減するとよい。

ダンボールコンポストを作る



※通常は、ピートモスを多めに入れる例が多いが、それほど気にしなくても大丈夫。あくまで目安と認識しよう。

• くん炭を入れる

- 今回のモデルは、12kgのくん炭を購入し、全て入れた。
- ピートモスとくん炭でダンボールの3分の2の量になればベスト。

ダンボールコンポストを作る



※あくまで目安の割合なので、最初は“半分ずつ(同量)混ぜる”と覚えておこう。

• ピートモス・くん炭

- 今回使用したピートモスとくん炭である。
- 割合は、ピートモス3にくん炭2又は1対1で混ぜる。

ダンボールコンポストを作る



- **よくかき混ぜる**

- 混ぜた時点で発酵が始まる。
- 通気性の良い場所で行うこと。

※両方とも軽い素材なので、風の強い場所では吹き飛ばすことがあるので注意しよう。

ダンボールコンポストを作る



※最初は、1kg～2kg入れると分解が活発になるぞ。
500gは目安であり、いちいち気にすることはない。
生ごみが出たら入れてもいいし、溜めてから入れてもいい。

• 生ごみを入れる

- 生ごみの量の目安は、1日平均500g程度である。
- 水気は切った方がいいが、それほど気にすることはない。

ダンボールコンポストを作る



※入れていけないものではない。
生ごみ全部を入れ、分解されない
場合、後で取り除けばよい。
面倒なら、そのまま入れたままで
も差支えない。

• よくかき混ぜる

– 次のようなものは
あまり分解されな
い。

○玉ねぎの皮

○貝殻

○魚や肉の骨

○レモンなどの柑橘類

○卵の殻

ダンボールコンポストを作る



※布は必須ではないが、虫よけとして被せた方がよい。
また、被せるときは、常に同じところを表にすること。

• 布を被せて完成

– 通気性を良くするため、下に角材やビール箱等を置く。
例では、ダンボールを置いている。

1～2週間で温度が40度近くまで上昇する。

上昇しない場合は、米ぬかや廃食油をカップ1杯入れるとよい。

ダンボールコンポスト完成したら



※熟成は、1ヶ月ほど寝かせて完成である。畑の土（黒土）と混ぜて熟成させると良質な堆肥になる。

- **完成の目安は3カ月**
 - 約3カ月間で分解が遅くなってきたら、基材の能力限界なので、生ごみの投入をやめる。
 - この後、熟成させる。

ワンポイント！



※ペットボトルは、容器の大きさを判断するため撮影している。これも目安なので、容器にこだわることはない。

※完全に腐った生ごみは分解されないこともあるので、入れないように注意しよう。

• 生ごみが少ない・・・

- 生ごみが少ない場合は、左の容器などに溜めてから混ぜるとよい。
- 2・3日(場合によっては1週間)混ぜなくても問題はないが、混ぜると分解が早まるので良く混ぜよう。

ダンボールコンポスト実践編

ご清聴ありがとうございました。

